

■部会名：暮らし・定住部会

■部会長（有識者委員）：千里 政文 委員

■市民委員：大作 美佳 委員、神 千加 委員、諏訪部 容子 委員、富沢 裕司 委員、
松本 教子 委員、水野 功 委員

■意見の概要

[今回配布資料に関する意見]

- グレシャムとの国際交流は、一般市民にあまり知られていないと思う。
- 情報図書館の開館時間については、学校が休みになることの多い月曜日の開館や仕事帰りにいつも利用できるような開館時間の検討をしてほしい。また、情報図書館を頻繁に利用しているが、ハローワークの求人情報が情報図書館にあること自体知らなかった。せっかくあるものの情報発信がうまくいっていないのではないか。

[マトリックス作業中の意見]

- 学童保育の終了時間が早いところがあり、冬に子どもが1人で自宅の暖房を入れなければならないときがあるので、保育時間を延長してほしい。
- この部会では、人口の増加や他の都市の手本になるようなことを念頭において、マトリックスの議論をしなければならない。
- 近隣の街で利用できる施設についてはそちらへ行っていただいて、これだけはどうしても江別になければいけないものについてのみ充実させるべきである。何でもかんでも江別にほしいというのは無理なこと。
- 市民体育館を子どもたちが自由に走り回って遊べるように開放してほしい。
- 就学前の子どものために、児童センターを平日でも午前11時前から開館してほしい。特に、冬に外で遊べないときは早めに開館してもらえると屋内で遊べる貴重な場所となる。
- 学校の空き教室や体育館を学校で利用していない時間帯に就学前児童のために開放してほしい。既存の施設を上手く活用するべきではないか。
- 障がいの疑いのある子どもが置かれている環境に応じて、幼稚園・保育園の先生など身近にいるどの人に相談しても発達支援に繋がるような体制を整えてほしい。また、発達支援センターのポスターを掲示するなど、今やっている取り組みに関する情報をもっとPRしたら良いのではないか。
- 情報発信やイメージづくりといった部分については、すぐにでも取り組めるはずである。例えば、長沼で農家が経営しているレストランなど、有名なところは札幌の人でも皆知っていて、そこへ食べに行く。江別のブロッコリーは全国でも有数の産地であるので、江別のブランドイメージづくりが大事である。

- 江別に関する色々な情報の発信について、個々の部署で対応するのではなく一括して担当する部署が、市役所に必要ではないか。
- 「まんまる新聞」 ((有)くらしの新聞社<札・厚別区>発行) には、町村農場のミルクガーデンのオープンなど、江別のイベント情報が色々と掲載されていて参考になる。
- まちコン、EBE-1グランプリなどのイベントは、人が多く集まるので継続することが大切である。
- 江別太にある気象庁設置の観測点について、冬にとっても低い気温(マイナス二十何℃)が発表されるので、江別がとても寒いまちであるイメージを与えてしまう。観測点を移動させると色々問題になるので、気温の発表を江別独自に行うという可能性があるのではないか。
- 江別で働く場所がないから、大学生は札幌(市外)へ行ってしまう。大学生の数が減ってきているとはいえ、大学生が多い街であることは確かなので、就職先があれば定住する可能性を秘めている。
 - ・ 企業の誘致が大切ではないか。
 - ・ 千歳のトマトの農園(元大阪府知事の太田氏が社長)は、単価は高いが物は良く、しかも地元の人をうまく雇用している。
 - ・ 地熱を使って年中無農薬のレタスなどを栽培している野菜生産工場の例があり、雪の影響を受けない。こういうノウハウを持った工場を造って雇用してはどうか。
- 短期的な意見では、幼少期の子育て支援について多くの意見が出ているが、もう少し年齢が上の子どもたちへの支援(スポーツや芸術の分野で良い先生を揃えるなど)があると良いのではないか。
- 学校は避難所にもなっているので、学校の耐震化について、現在どこまで進んでいるのかという情報を広く発信することが必要ではないか。